

14 キャリア教育，志教育について

1 キャリア教育と志教育の位置付けと関係性，取り組みの方向性

<p>キャリア教育（勤労観・職業観を育成）</p> <p>① 児童生徒の自立を支援する ー小学校のねらいー 生活や学習上の課題に対して，自分がよいと思うことを考え，見通しを持って行動する。 ー中学校のねらいー 自己の個性や興味・関心に基づいて，よりよい選択ができ，自分の目標に向かって継続的に努力する。 ー高等学校のねらいー 自分の興味・関心を明確化でき，将来の目標に向かって具体的な努力をする。</p>	<p>志教育（夢を育み，志に高める取組）</p> <p>志教育とは，キャリア教育の趣旨と重なる点が多々あるのですが，小・中・高等学校の全時期を通じて，人や社会と関わる中で社会性や勤労観を養い，集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら，将来の社会人としてのより良い生き方を主体的に求めさせていく教育です。志教育のねらいに迫るために三つの視点を設定しました。以下に視点を示します。</p>
<p>② 内的キャリアの形成を促す</p> <p>内的キャリアとは，経験・直接体験そのもの（外的キャリア）に対して，そこから得られた達成感や感動，様々な気付き，価値観等，児童生徒の内面に蓄積されるもので，<u>学校教育に関わるあらゆる場面</u>で形成されます。</p>	<p>① 人と『関わる（かかわる）』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人とのかかわりを通して，自己理解や他者理解を深化させる。 ・集団や組織の中で，より良い人間関係を築く力や社会性を養う。
<p>③ <u>二つの基礎的な力</u>を育む</p> <p>2つの基礎的な力とは，自立を支えるものであり，「人間関係を築く力」と「自分を高めていく力」のことです。これらは，②で示した児童生徒の内的キャリアの形成に大きな影響を与えるものと考えられます。</p>	<p>② より良い生き方を『もとめる』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で学ぶ知識と，社会や職業との関連を実感させる。 ・社会において役割を果たす人間として，自らの在り方，生き方について主体的に探究させる。 <p>③ 社会での役割を『はたす』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団や組織の中で，自分の果たすべき役割を認識させる。 ・自己の役割を果たすことによって自己有用感を高める。

※上記の内容は，「みやぎキャリア教育プラン」と「みやぎの志教育プラン」を参考に構成。

※下線の意味…破線：要点として，おさえない部分。実線：説明(以下に記述)が必要な部分。

・学校教育に関わるあらゆる場面

例えば，学級活動・学校行事・総合的な学習の時間・体験学習・教育相談・道徳・ボランティア活動・インターンシップ等のことです。

・二つの基礎的な力

二つの基礎的な力を付けるために小・中・高等学校で次のような六つの視点を設定しています。

小学校での視点	中学校での視点	高等学校での視点
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちや考えを相手に伝える。 ・友達の考えや気持ちが分かる。 ・目的や役割を理解し、協力して活動する。 ・気持ちを安定させ、元気に活動する。 ・新しいことや難しいことに挑戦する。 ・興味や関心を広げ、やってみたいことを見付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を素直に表現する。 ・相手の気持ちを考えて行動する。 ・集団の中で、協力して行動する。 ・自己改善を図る。 ・自分の感情をコントロールする。 ・物事に粘り強く取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲にも心を開き、信頼関係を築く。 ・他人と協力する。 ・自分の意見と他人の意見を調整し、まとめる。 ・物事に対して前向きな見方や受け止め方ができるようになる。 ・一つの行動を継続する。 ・自信を持つ。

2 特別支援教育から考えるキャリア教育と志教育

1のところで紹介したキャリア教育と志教育は、互いに補完し合っている点が多いのですが、まずはキャリア教育の基本である破線で示されている部分を踏まえて、児童生徒の成長につなげていけるようにしたいものです。キャリア教育と志教育で語られている事柄は、『自立』に向けての大切なポイントであることに間違いはありません。しかし、児童生徒の実態によっては達成が難しい場合もあります。特別支援を必要とする児童生徒にとっては、「教育支援」が大前提にあります。周囲の人々から支援を受ける場面が多くなれば、結果として受動的になり、児童生徒の主体性が乏しくなりがちです。

以上のことから、次の三つを心に留めてキャリア教育と志教育を進めることが肝要であると思われまます。

- ① 的確な実態把握に基づいた指導目標及び指導内容の設定と、それらに応じた配慮や工夫を事前に検討しておくこと。
- ② シンプルな様式で良いので、児童生徒の「キャリア発達段階・内容表」を作成し、成長の進捗が分かりやすい資料を用意すること。
- ③ 児童生徒の障害特性の理解を積み上げながら、本人及び保護者のニーズの把握に努めること。

なお、小・中・高等部の発達段階に応じた系統的な指導に加え、児童生徒の障害に応じ、社会生活、家庭生活に主体的に参加し、自分の役割を果たそうとする力を養うとともに、進路を適切に選択する力を身に付けるための指導・支援を進めることが大切です。

3 キャリア教育と志教育に関する具体例

- ・同年齢児童と一緒に学習する機会を増やす。(例：近隣の学校での教科の交流、共同学習等)
- ・就職先、進学先、労働訓練機関等についての情報を得る環境を整える。(例：チャレンジセミナー及び学習会、卒業生にとどまらず、障害のある方の社会参加の姿を知ること等)
- ・地域との交流活動で余暇活動を拡大する。(例：ダンス教室や昔の遊び等)
- ・行事等における見学地での『仕事調べ学習』(例：校外学習や修学旅行で出かけた時に仕事の種別や仕事内容を調査)
- ・オフィスルールの設置と活用(例：仕事場をイメージした部屋を作り、そこで実際の作業)
- ・IT企業の協力によるプレゼンテーションソフト講習会を設定する。(例：パソコン活用学習)